

Company Profile

Jardine Lloyd Thompson Limited



ジャーディン・ロイド・トンプソン株式会社
会社案内

Contents

ごあいさつ	(2)
JLTの保険最適化プロジェクト	(3)
企業を守る保険種目群	(3)
リスクソリューションの総合的ご提案	(4)
信頼出来るクレームサービス	(4)
自家保険、自家補償制度の構築	(5)
海外の建設工事及び石油、ガス開発、精製等のプロジェクトに関する保険設計	(5)
JLTグループについて	(6)
JLTアジアについて	(6)
会社概要	(7)
ジャーディンマセソンと日本	(8)

ごあいさつ

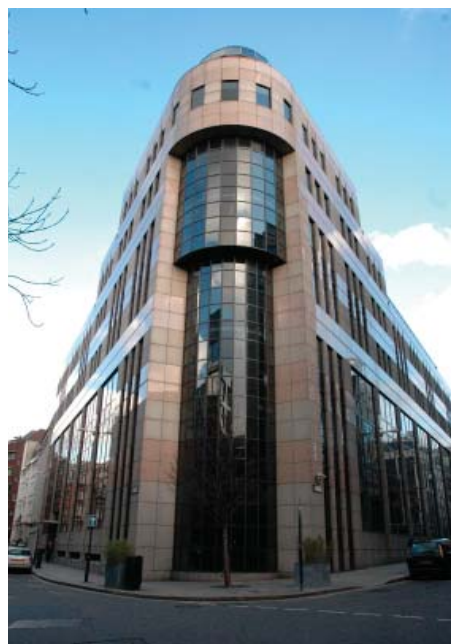
当社は2009年（平成21年）に日本法人設立25周年を迎えました。おかげ様で25年間継続し右肩上りの成長を続けて来ることが出来ました。これはひとえに、お客様と引受保険会社様の、いわば車の両輪とでも言うべき皆様の強いご支援によるものと、日々感謝をいたしております。

日本の保険業法の全面的改正が1996年に施行された後、日本でも保険のグローバル化が進んで参りました。

当社はロンドン本社を中心に世界各地の最先端技術を極めて、お客様や保険の業界に提供し続けております。

2008年には世界的な金融崩壊が生じ、お客様や保険業界が望むリスクソリューションはレベルの高いものになって来ています。

当社は今までも増して皆様のご要請にお応え出来るよう努力して参りますので、ますますご愛顧いただきますようお願い申し上げます。



英国本社ビル

代表取締役社長 梶谷 利明



ジャーディン・ロイド・トンブソン株式会社（ジェイエルティ）は英国に上場している英国最大の保険ブローカーの日本法人です。

ジェイエルティグループは全世界で5,500人の専門知識のある社員が損害保険料1兆円以上を取扱っています。

また中国全土で有効なブローカーライセンスを保持し、アジア各国又は地域において、最も有力な保険ブローカーとして、お客様の信頼をいただいております。

JLTの保険最適化プロジェクト

保険の自由化・規制緩和が始まってから10年以上経過しました。

その間今日に至るまで保険を見直したいという企業からの要請が増え続けております。

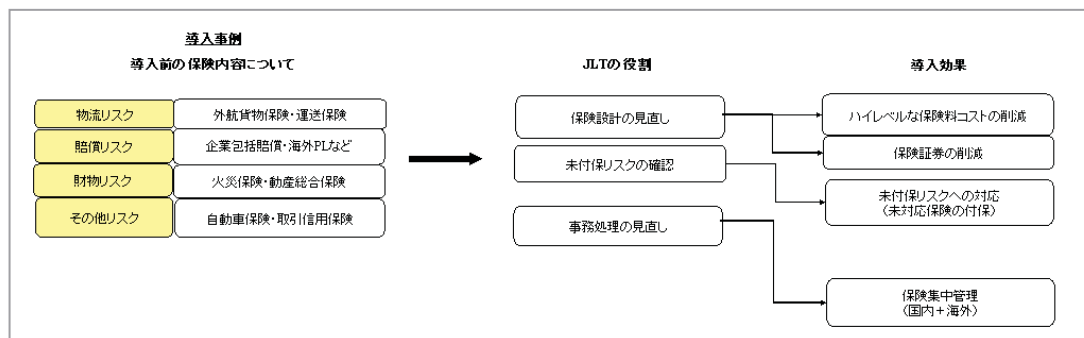
JLT（ジェイエルティ）は企業の皆様のために、自由化・規制緩和のメリットを活用した「保険最適化プロジェクト」を実施し、最適な保険設計を提供しております。

保険最適化プロジェクトの効果

- ・ 保険料コスト削減
- ・ 保険担保内容適正化
- ・ 事務簡素化
- ・ 事故処理、保険金支払の迅速化
- ・ 結果としてリスク移転の手段としての企業における保険が最適化される

保険最適化プロジェクト効果達成の条件

- ・ ニュートラルな立場であること
- ・ 専門性の高い知識と経験が豊富であること
- ・ 世界的ネットワークがあること
- ・ 再保険マーケットで有力であること



企業を守る保険種目群

日本の保険が自由化・規制緩和されたことにより火災保険・自動車保険・傷害保険等の分野において既製商品しか買えなかった時代から補償内容や料率がフレキシブルになってお客様のニーズにあわせたオーダーメイド型商品を利用することが出来るようになりました。また、企業のリスク防衛手段として需要が高く、海外では既によく普及している下記のような保険種目群を新分野の保険として、日本市場に導入できるようになりました。

JLTでは企業が直面するあらゆるリスクに対し、これを回避するための保険やアイデアを提供しております。

売掛金回収に関する保険：取引信用保険（クレジットインシュアランス）

海外との貿易に関して売掛金回収に関する保険：貿易保険（トレードクレジット インシュアランス）

製造物責任に関する保険：生産物賠償責任保険（PL保険）

商品リコールに関する保険：プロダクトリコール保険

職業上の賠償責任保険：E&O保険（プロフェッショナル インデムニティ）

横領などの背任行為による損害に関する保険：身元信用保険（フィデリティ インシュアランス）

株主代表訴訟等に関する保険：役員賠償責任保険（D&O保険）

個人情報漏えいに関する保険：個人情報漏えい保険

社内での差別やセクハラなどに関する保険：EPLまたは雇用者関連賠償責任保険

土壌汚染に関する保険：環境汚染賠償責任保険

コンサートやスポーツイベント等の興業中止に関する保険：イベント保険又は興業中止保険

などなど

リスクソリューションの総合的ご提案

企業のリスクに対する対応策としてはリスクの保有、移転、改善、回避分散があります。

JLTでは以下のような手順でリスクソリューションをご提案しております。

- ① リスクファインディング：リスクの1つ1つを洗い出しお客様に認識していただきます。
- ② リスクの評価：1つ1つのリスクを数量化しそれぞれに対し如何なる手段で対応すべきかを検討します。
- ③ リスクマッピング：評価を終えたリスク群に優先順位を付けるなどしてリスクの回避、保険への移転などを提案いたします。
- ④ BCPへの対応：あらゆる考え方や方法を用いた後も、企業の営業を継続させるための計画（ビジネスコンティニューイティプラン）は必要との考えから、BCPに沿ったリスク移転策を提案いたします。



最適なリスクソリューションをご提案

信頼出来るクレームサービス

保険の真の価値が判るのは、やはり不幸にも事故が発生し、保険金で企業が守られる状況になった時です。

JLTでは経験と知識の豊富な専門スタッフが事故発生後の対応策に対し迅速で的確なアドバイスをお届けいたしております。



自家保険、自家補償制度の構築

JLTでは企業単位、業界単位などでご要望の多い理想形のリスクマネジメントに基づいた自家保険、自家補償制度の構築についてのご相談を承っております。弊社のグローバルネットワークを存分に生かし、ご満足のゆくプログラムをご提供いたしております。



海外の建設工事及び石油、ガス開発、精製等のプロジェクトに関する保険設計

近年は日本企業も国外の電力開発や天然ガスLNG、石油等の開発精製等について数多くのプロジェクトを受注しています。このようなプロジェクトではお客様は事業開始の現地の調査段階から数年後の事業開始を見据えて、多くの利害関係者や資金提供者との間で取交される契約等の条項において責任負担条項とリスク移転条項について各種アドバイスを必要としていらっしゃいます。

JLTでは業界ナンバーワンの実力を備えた専門家が多数控えて皆様のさまざまな個別のご要望に応じております。これら専門家の数は、ロンドンでは建設関係120名、エネルギー関係160名アジアでは建設、エネルギー関係合せて42名を擁し、日本人3名を含む体制でサービスを提供しております。



“専門家の陣容と保険料扱い高は
ロンドンマーケットでトップクラスの
ブローカーです”

JLT グループについて

JLTグループは世界における保険・再保険ブローカー及びリスクマネジメント・アドバイザーのリーディングカンパニーです。また、JLTはEmployee Benefits（従業員を対象とした生命保険、福利厚生制度等）の制度構築、運用、コンサルティングにおいても幅広く活躍しています。

JLTはロンドン証券取引所に上場しており、同業界においては世界トップクラスの規模を誇る会社です。35カ国に100以上の拠点をもち、全世界で6,000名以上の専門スタッフを雇用しています。

JLT アジアについて

JLTのアジアにおける事業活動は1836年まで遡り、現在はアジア地域で最も実績のある保険ブローカーとして評価されています。JLTはアジア12カ国（中国、香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、マカオ、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナム）に拠点をもち700名以上の専門スタッフを雇用しています。

JLTはジャーディン・マセソンのグループ会社です。ジャーディン・マセソンはアジアを中心にエンジニアリングや建設、運輸、自動車流通、不動産、小売業、レストラン、ホテル、保険などの分野で地域最大の運営を行っています。



会社概要

会社名	ジャーディン・ロイド・トンプソン株式会社	
本社住所	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-2-6 共同ビル（本町）3階	
本社電話／ファックス番号	Tel 03-3517-3030	Fax 03-3517-3029
設立年月日	1984年12月12日	
業務内容	保険（損保・生保）企画販売 / リスクマネジメントのご提案	
代表取締役社長	梶谷 利明	
資本金	¥50,000,000	
年間売上額（収入保険料）	65億円	
取引銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行	香港上海銀行



関西	ジャーディン・ロイド・トンプソン株式会社 関西本部	
関西本部住所	〒543-0062 大阪府大阪市天王寺区逢阪1-1-16 FT逢阪ビル401	
関西本部電話／ファックス番号	Tel 06-6774-1808	Fax 06-6774-1809



関連会社	JLTリー・ジャパン株式会社	
住所	〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町2-9 カーサ日本橋4階	
電話／ファックス番号	Tel 03-5614-1177	Fax 03-5614-1172

ジャーディンマセソンと日本



後列左から遠藤謹助（造幣局長）井上勝（鉄道の祖）伊藤博文（総理大臣）

前列左から井上馨（外務大臣）山尾庸三（日本工学の父）

長州ファイブと敬意を持って英国で称された5名は、長州藩主毛利敬親の求めに応じたジャーディン マセソン商会のウィリアム ケジックが日本出発を、受入れ側では、ヒュー マセソンが英国滞在を支援した。その後ジャーディン マセソンは薩摩の若手の英国留学も支援した。

（ジャーディン マセソン社史より抜粋）

An undated photograph of five serious, good-looking young men shows the future four-times Prime Minister of Japan, Prince Ito Hirobumi (back right) and Marquis Kaoru Inoue (front left) with the three friends, the mint master Kinsuke Endo (back left), the father of railway Masaru Inoue (back center), the father of Japanese engineering Youzou Yamao (front right) with whom, at the request of the Feudal Lord of Choshu, they went to study in London. William Keswick arranged their secret departure from Japan and, in London, Hugh Matheson interested Professor Alexander Williamson of University College in their introduction to Western life. Later Jardines also helped other young men of the Satsuma clan to study in London with the help of Matheson & Co.

ジャーディンマセソン社は、傘下にアジアを中心とし、広く巨大な企業群を所有しております。それらは、ジャーディンパシフィック、ジャーディン自動車グループ、香港ランド、デイリーファーム、マンダリン オリエンタル ホテルグループ、ジャーディン サイクルアンドキャレージ、そしてJLTなどです。このそれぞれの法人が、エンジニアリングや建設、運輸、自動車流通、食品雑貨流通、レストラン、ホテル、金融、保険などの分野で地域最大の運営を行っております。



1840年頃の香港セントラル



2009年の香港セントラル



“英一番館”（ジャーディン マセソンの横浜商館）の頃の横浜 1865年頃

